

会員の活動報告

(2008年11月～2009年10月)

伊川 徹

- モリエールとヴェルサイユII — ルイXIVとモリエール — (講演、第23回フランス文化講座、日仏文化協会関西センター、2008年11月)
- モリエールとヴェルサイユIII — リュリとモリエール — (講演、第24回フランス文化講座、日仏文化協会関西センター、2008年12月)

伊藤誠宏

- Vaugelasが*Nouvelles remarques sur la langue française*で留意した副詞 (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)
- 『マナーの常識と知識』(神戸新聞総合出版センター、2009年5月)
- Vaugelasが*Nouvelles remarques sur la langue française*において使用価値を懸念した語 (関西大学『文学論集』第59巻第1号、2009年7月)

奥 純

- フランス現代文学におけるまじめな笑い (講演、日本笑い学会オープン講座、於大阪市立弁天町市民学習センター、2009年4月)
- フランス文学における笑い論序説 (関西大学『文学論集』第59巻第2号、2009年10月)

小澤祥子

- 『中世フランスのファルスと狂言の比較』(自費出版、2009年9月)
- 中世ファルスと狂言の比較 — 人間関係の対立における第三者の役割 — (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)

川神傳弘

- J.-P.SartreとA.Camus-Transcendance vs *hic et nunc* (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)

田島義士

- *Le vert dans la poésie de Rimbaud* (Master 2 論文、パリ) 第四大学学位証明受理・発行、2009年10月)
- ランボーにおける音楽性と意味の繋がり (口頭発表、日本フランス語フランス文学会関西支部会、2008年11月)

田中 良

- ブルースト的気象学 — 「失われた時を求めて」を読む — (近代文芸社、2009年4月)

津川廣行

- ジイドの『贖金つかい』と《複雑系》の問題 — コスモスとカオスの狭間に — (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)

友谷知己

- 美学論としての『虚無への供物』 — 中井英夫とフランス文学 — (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)

内藤義博

- フランス・オペラの誕生 — その四 — (『仏語 仏文学』第35号、2009年3月)

山川清太郎

- 『Cristal クリスタル』(教科書、小倉博史、間野嘉津子、兼山美幸3氏との共編、駿河台出版社、2010年3月)
- *Le Marchand Véronique* (2006), *La francophonie*, Paris: Édition MILAN, (*Revue japonaise de didactique du français Vol.4, no 2 Études françaises et francophones*, 64p.) (書評、日本フランス語教育学会、2009年10月)
- 大学3年生のフランス語 — 何をどのように教えるか? (口頭発表、関西フランス語教育研究会、2009年3月)
- 大学3年生のフランス語 — 何をどのように教えるか? (*RENCONTRES* 23、関西フランス語教育研究会発行、2009年7月)

修士論文題目

2009年3月

大山佳栄子

アラン・レネ『ミュリエル』論 — ラザロ的人物の形象 —

木村 藍

ヨーロッパにおける障害者の歴史とフランス文学に見る障害者の描かれ方

佐野 仁信

フランソワーズ・サガンの *Bonjour tristesse* における光と影

後 記

来年度から「フランス学専修」に名称が変わる私たちの専修は、関西大学仏蘭西文学科創設以来62年目を迎えますが、当誌の第1号発行は1960年です。当時の学科主任三木治先生はその編集後記で、宿願であった雑誌「仏語仏文学」の刊行に漕ぎ着けることができた喜びを素直に吐露し、更になのように語っておられます。「それにしても毎年1回は必ず発表を、ということは筆者のごとき怠け者には空おそろしい気がする。しかしこうでもしなければわれわれの知的動脈硬化は遂に救い難いものとなり果てるであろうから。」

私たちは先人が遺してくれた研究発表の場に感謝し、また報いる気持ちを忘れぬようにしたいものです。

12月12日大阪日仏センター＝アリアンスフランセーズ暗誦大会において、わが仏文の学部生が1位～4位を独占する快挙を成し遂げました。現役生諸君も頑張っております。

本学会2009年度研究発表会・総会が2010年1月9日(土)A503教室で開催され、活発な質疑の飛び交う研究発表会となりました。発表者と発表題目は以下の通りです。

1. 科学をめぐるディスコースにおける「科学者の声」
— 「確実性」「不確実性」の観点から —
本学大学院博士課程前期課程 出口 由美 氏
2. パルザック『幻滅』におけるロマン主義的詩人像
本学大学院博士課程後期課程 柳 美希子 氏
3. 現代社会におけるカニバリズム
— 人体の資源化と商品化 —
本学大学院博士課程後期課程 高岸 敦夫 氏
4. ジイド晩年にみる複雑系の世界観
大阪市立大学教授 津川 廣行 氏
5. アラン・ロブ＝グリエにおけるエグゾチスム(3)
本学教授 奥 純 氏

発表会終了後の総会では活動報告、会計報告などの案件が審議・了承されて閉会となり、会場を法文坂レストランに移して17時より懇親の夕べとなりました。

(川神 傅弘)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第36号

2010年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス語フランス文学研究室

印刷所 株式会社 遊文舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325(代)

(非売品)